

社会福祉法人 エンゼル福祉会
おたけの郷
2024 年度 事業報告書

(1) . 育成

I 内部研修

WEB 研修、集合型の研修を取り入れながら法令に基づいた研修をしっかりと受講していく事ができた。また、外部への研修参加も積極的に行い、ユニットリーダーには東京都が実施するスキルアップ研修を受講してもらう事により、基本的な介護に関する知識、得た知識を広めていくためのマネジメント手法を学ぶことができた。

中途入職者に対する研修に関しては、グループ全体で実施する合同入社時研修（計 4 日間）への参加を原則とし、その後施設内において施設の理念や建物の造りなどを踏まえた新入職員研修を実施してきた。

① 各委員会主催研修

原則的には感染予防策を実施しながら集合型の研修を実施。

研修名	開催月
食中毒・感染症予防委員会	【2024 年 4 月】 ・ガウンの着用に関して ・ゾーニングに関して ・食中毒予防に関して 【2025 年 2 月】 ・感染症予防に関して ・感染予防のための手洗い 【2025 年 3 月】 ・嘔吐時の対応、
虐待防止・身体拘束廃止委員会	高齢者虐待に関する事 【2024 年 5 月】 ・高齢者虐待 増加の背景 ・虐待の種類と要因 ・令和 6 年度より義務付けられた虐待防止に関する内容 【2024 年 12 月】 ・大起グループ虐待防止／身体拘束廃止指針 ・虐待の種類と要因 ・虐待と疑われた／認定を受けた事例 ・身体拘束廃止に関する事 【2024 年 5 月】

	・国が定める身体拘束の要件 ・身体拘束を実施するうえでの要件 【2024 年 12 月】 ・入居者の安全と尊厳 ・スピーチロックが与える影響
事故防止委員会	【2024 年 7 月】 ・高齢者の事故 ・事故予防対策について 【2025 年 2 月】 ・薬の事故について ・介護事故の種類 ・事故の原因や再発防止策のポイント
褥瘡対策委員会	【2024 年 8 月】 ・皮膚の構造に関して ・褥瘡予防に関して 【2025 年 3 月】 ・褥瘡対策に関する指針 ・日常的な褥瘡予防 ・多職種連携による褥瘡予防
食支援委員会研修	【2024 年 9 月】 ・誤嚥性肺炎予防 ・むせ込みの種類と初期対応 ・5 期モデルについて 【2025 年 2 月】 ・窒息、誤嚥性肺炎の予防に関して ・安全な食事介助について ・食の構造化
看取り研修	【2024 年 9 月】 ・看取りの定義 ・看取り介護とは ・看取り介護で配慮すべき事 【2025 年 3 月】 ・看取り介護の流れ ・看取り期の見当 ・看取り期の変化

② 中途職員研修

2024 年度に入職した職員はグループ合同による研修（グループの成り立ちから大切にしている考え方の共有を図るために）を実施。2024 年度は計 12 名の職員が受講した。入社後は法人内の OJT システムに則り現場における指導を実施。定期的に面談を実施しながら試用期間評価を迎えるようにし、新入職員が安心して働く事ができるよう OJT を行ってきた。

Ⅱ 外部研修

① グループ内選択研修

法人内で定めた書式（個別研修計画書）に則り、年間の受講計画を策定していった。

② グループ内 3 年目研修

2024 年度は受講者なし。

③ 合同管理者研修

グループ内全ての管理者が集い、管理者としての心構え等を学ぶ事ができる貴重な機会におたけの郷からは 5 名が参加する事ができた。

④ 認知症介護基礎研修

無資格者に対し認知症介護基礎研修の受講を義務化。技能実習生に関しては 6 か月を経過後、計画立てながら受講を進めていった。

⑤ ユニットリーダー研修

2024 年度は受講者なし。

Ⅲ その他

① 資格取得制度、就業促進事業の活用

- ・荒川区の「介護サービス事業所 人材育成事業」を活用し初任者研修 2 名、実務者研修 1 名が研修修了となった。
- ・東京都の「介護職員就業促進事業」を活用し、2 名が初任者研修を修了した。

② 人事考課制度

年 2 回の人事考課を実施。基本的には例年通り 3 名（当該者・評価者・決点者）で実施。本人のモチベーションアップは当然だが、年 2 回の賞与にも影響を及ぼす重要な制度のため、決点者と評価者において配点の根拠を共有し、当該者が正当な評価結果となるよう努めてきた。人事考課の場だからこそ言える悩み、その他意見等を収集しながら、評価者自身の「良い部分」「仕事としての成果」「成長の度合い」「今後取り

組むべき事」を3者で話し合い共通認識とする事により、専門職としてだけでなく、組織人としての視野も広がっていている。

③ OJT教育システム

主にフロア責任者、ユニットリーダーを中心に行い、日々の業務の合間に本人成長度合いを確認するとともに、1か月目、2か月目、試用期間評価を確実に実施する事により、一人での勤務となった際も不安なく勤務ができる体制を整えてきた。また、試用期間評価の際には「夜間の救急搬送時の流れ」と「感染症発生時の対応」を加え、急変時にもマニュアルに沿って対応ができるような職員の育成に努めてきた。

④ その他 外部研修への参加

外部研修への参加も積極的に行った1年であった。

- ・認知症介護実践者研修…1名
- ・病院ではない看取り 些細な変化を見落とさない…2名
- ・特定給食施設 栄養士講習会…1名
- ・認知症ケアプログラム研修…1名
- ・次世代機器導入前セミナー…2名
- ・介護職員 スキルアップ研修 実践編…9名
- ・特定行為研修制度の概要…1名
- ・感染症講演会…1名
- ・医療機関における外国人患者対応支援研修…1名
- ・高齢者権利擁護推進事業 看護実践者研修…1名
- ・介護現場における多職種連携の重要性…2名
- ・認知症ケアの基本…1名

(2) 雇用（採用）

I 採用状況報告

① 応募・雇用状況

2024年度は人材紹介を含めると20社を活用。うち無償型（ハローワークやホームページ等）を5媒体。その他は採用課金型としコスト削減に努めてきた。

② 応募数・面接者数・採用者数

	2024 年度	2023 年度
応募数	136 名	97 名
面接者数	51 名	41 名
採用者数	29 名	28 名

採用率	21.3%	288%
-----	-------	------

③ 外国人技能実習生

2024 年度は 3 名の技能実習生が入国～実勤務となった。グループとして N3 の試験合格は必須となるため、日本語の勉強は定期的に行ってきた。また、日本での生活で不安を感じる事がないよう、勤務開始後しばらくは定期的に自宅への訪問を行い日常生活における心配事などの聞き取りを実施。体調を崩した際は医療機関への付き添いなども行いながら、仕事だけではなく日常生活全般において支援を行ってきた。

Ⅱ 事業所・職種別職員 常勤換算（職員）数（2025 年 3 月 31 日現在）

	正規職員	非正規職員	うち技能実習生	うち特定技能	派遣職員
①ユニット型特養	35.0 名	11.0 名	3.0 名	1.0 名	
②ユニット型短期	5.0 名	5.2 名	名	名	
③従来型特養	12.0 名	3.4 名	1.0 名	名	
④看護師	3.0 名	1.1 名			5.2 名
⑤介護支援専門員 （相談員兼）	2.0 名				
⑥管理栄養士	1.0 名				
⑦総務	2.0 名				
⑧居宅介護支援	3.0 名				
⑨機能訓練指導員	1.0 名				
⑩環境整備・運転		6 名			
⑪障がい者雇用		3 名			

Ⅲ新規卒業者

採用パンフレット及び求人票については、グループとして関東圏・東北圏の高等学校や専門学校に送付を行った。近隣高校には直接伺い、少しずつ関係も築けてきていると実感している。2024 年度中には 1 名の新規卒業者の採用が決定となり、2025 年 4 月より勤務を開始している。

Ⅳ離職状況

2023 年度の退職理由は下記の通りである。

退職理由	特養	短期入所	他職種	計
身体的負担	0 名	0 名	0 名	0 名
業務内容への不	1 名	0 名	1 名	2 名

2024 年度 社会福祉法人エンゼル福祉会
おたけの郷事業報告書

満・負担				
体調不良	2 名	1 名	0 名	3 名
人間関係	3 名	0 名	1 名	4 名
高齢のため	0 名	0 名	0 名	0 名
親族介護のため	2 名	0 名	0 名	2 名
通勤関係	2 名	0 名	0 名	2 名
結婚・出産	0 名	0 名	0 名	0 名
その他	4 名	0 名	1 名	5 名
計	14 名	1 名	3 名	18 名

	2024 年度	2023 年度
離職率	16.6%	22.7%

前年度と比較し減少。OJT システムの強化、研修受講の推奨などが減少に繋がったと感じている。今後も定着→育成の流れをしっかりと確立し、安定した運営を目指していきたい。

(3) 事業別目標評価

I 特別養護老人ホーム（従来型 40 床・ユニット型 100 床＝計 140 床）

① 稼働率

・2024 年度稼働率目標…97%

※前年比

稼働実績	94.7%	-1.2%
入院総日数	1,906 日	+654 日
空室平均	18.2 日	-2.0 日

② 入院者報告

単位：日

	肺疾患 誤嚥性 肺炎	骨折	泌尿器 疾患	脳疾患	心疾患	内臓疾患	その他 コロナ 含む
2023 年	403	47	50	22	67	277	379
2024 年	587	88	145	154	32	147	568
前年比	+184	+41	+95	+132	-35	-130	+189

③ 退居理由

理由	ユニット型	多床室	計
看取り介護	11 名	8 名	19 名

2024 年度 社会福祉法人エンゼル福祉会
おたけの郷事業報告書

病院（死亡）	14 名	7 名	21 名
他医療機関	7 名	2 名	9 名
在宅復帰	1 名	名	1 名
計	33 名	17 名	50 名

空床平均日数が-2.0 日となり減少したものの未だに高い数値を示している。稼働率としては前年度比-1.2%となった。入院日数は前年度比+654 日となっており、新型コロナウイルスによる入院日数の増加、また下半期に流行した感染性胃腸炎の影響も受けた形となっている。

④ 入居判定委員会

荒川区高齢者福祉課より 3 か月に 1 回発行される入居申し込み表に基づき、1 か月に 1 度入居判定委員会を開催している。判定委員会には、施設長、施設介護支援専門員、相談員、管理栄養士、理学療法士、看護師らが参加し情報を共有している。

⑤ おたけの郷への申し込み 2025 年 4 月 1 日時点 ※（ ）は 2024 年度数値

- ・ユニット型…名（109 名）
- ・多床室…名（185 名）

※荒川区は行政への申し込みとなるため、上記全てがおたけの郷への申し込みというわけではない。

⑥ 入居者の状態（2025 年 3 月 31 日現在）

平均年齢	平均介護度	最高齢者	最年少者
88.7 歳	3.6	101 歳	60 歳

⑦ 事故件数に関して（特別養護老人ホーム 短期入所生活介護）

転倒	転落	ずり 落ち	誤嚥	異食	所在 不明	与薬 忘れ	落薬	誤薬	外傷	火傷	溺水	物損	紛失	忘れ 物	他	合計
99	31	10		1		14	10	10	24			2	1		7	209

2024 年度は総事故件数が 209 件となり、転倒事故が約半数近くとなった。同じ方が複数回繰り返し転倒されている事も数件あった事から、原因分析・再発防止策の立案が課題となった 1 年でもあった。

また、薬の事故に関しても 34 件と多く、マニュアル（ルール）に則り行動できていない事から起きてしまった事故ばかりとなっており、改めてルールの順守の重要性を説いていく必要があると感じた 1 年でもあった。

転倒事故に関しては、居室内で転倒されている所を発見した事故が多く発生している事から、2025 年度は ICT 機器（センサー付きベッド）の導入を視野に入れ、未然に防ぐ事ができる環境整備に力を入れていく。

また、薬の事故に関しては「ガバナンスの強化」を施設全体として目標に掲げ、薬のみに限らず法令や施設内順守事項を確実に守りながら運営できる組織を作り上げていきたい。

Ⅱ 短期入所生活介護

① 稼働率

	2023 年度	2024 年度	前年比
稼働目標（平均）	75.0%	80.0%	
稼働実績	76.1%	82.8%	+5.7%
全体新規件数	131 件	126 件	-5 件
荒川区新規件数	114 件	118 件	+4 件
荒川区利用者数	4,851 件	5,507 件	+656 件

- ・稼働実績に関しては前年度比+5.7%とはなったものの、まだまだ従来のショートステイの役割を果たしているとは言えない状況にある。夏頃にかけて上昇し年末にかけ下降するといった傾向を踏まえながら、営業活動や館内における取組を考えていきたい。
- ・質の高い、利用して良かったと思っていただけるようなショートステイを目指すべく、単に外部への働きかけを行うだけではなく、内部にもしっかりと目を向けていく必要がある。より質の高いサービスを提供する事ができるよう努めていく必要があることから、改めて研修受講や会議開催の強化に向け取り組んだ 1 年でもあった。引き続き、職員の成長、ご利用者様の ADL、QOL の向上に向け取り組んでいきたい。

Ⅲ 居宅介護支援事業所

・毎月のミーティング（施設長 介護支援専門員 3 名）を必ず実施し、進捗状況や現状の確認を行ってきた。また、3 名の介護支援専門員により、法令に基づいた内容でプラン作成等を行っているか等の相互チェック機能を取り入れた事により、法令に基づいた運営ができている。

- ・年間介護給付…1,161 件（月平均 89.0 件 前年度比+0 件）
- ・年間予防給付…271 件（月平均 21 件 前年度比-34 件）
- ・年間認定調査…15 件

2024 年度当初は予防の指定を受けていく予定であったが、現時点で進行していない状況。介護給付は前年度とほぼ同数であったが、予防件数は-34 件となっている。

認定調査数に関して、新型コロナウイルス流行後は外部機関への委託がメインとな

っていたものの、2024 年度は数件ずつ件数が上昇してきている。

(4) 災害対策

I 安否確認訓練

非常災害時の職員の安否確認として、セコム安否確認システムをグループ全体で運用。2024 年度からは BCP 運用が義務付けとなる事から、改めて全職員に対して安否確認システムの説明を行った。

また、新入職員に関しては入社時にセコム安否確認への登録を実施し入社時研修の際に登録の状況を確認できるようになった。、全職員が災害時に迅速に対応できるよう訓練も含め日頃から災害への意識を高めていきたい。

II 防災・避難訓練等

① 第 1 回：2024 年 6 月 12 日～14 日

- ・昼間の火災を想定した避難訓練 参加職員約 50 名

② 第 2 回：2024 年 11 月 10 日

- ・尾竹橋町会合同避難訓練 火災発生から公園までの避難訓練 参加職員 6 名
町内の方々に実際に火災が発生した場合の避難誘導方法をお伝えし、建物から隣の避難区域への避難という流れで実施。全体で約 200 名程度が参加するという非常に大規模な訓練であったが、災害時は多くの人手が必要となってくるため有意義な訓練であったと感じている。

③ 第 3 回：2025 年 3 月 25 日～27 日

- ・夜間想定 夜間の火災を想定した避難訓練 参加職員 10 名

(5) 地域への取り組み

I おたけ祭りの実施

新型コロナウイルスにより行えていなかったおたけ祭りを 5 年ぶりに実施した。施設周辺の地域の皆様にもお声がけを行い、当日は多くの方にご参加いただいた。また、ボランティアの皆様にもお越しいただけた事で、より地域の方々との交流の場になったのではないかと考えている。

2025 年度も引き続き地域に開かれた施設となり、より多くの皆様に楽しんでいただけるようなお祭りを開催していきたい。